

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	5Sの取り組みの1つとして、掲示板を見やすく整理中である。訪問者にも目につきやすい掲示を検討中である
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	ホームにパンフレットやホーム便りを配布できるように準備している。訪問者があったときに職員全員がホームの紹介や取り組みについて話せるように今後指導していく
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	地区の方より踊りに訪問して下さった。これを機会に定期的な訪問依頼を行ない計画していきたいと考えている
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	H21年度は年間計画に地区行事を取り入れ、職員体制を作り参加しやすいように計画する。霧島市高齢者ボランティアの受け入れ、申請をしているので協力をいただこうと思う

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	市の健康福祉祭へ参加しパンフレットを配布した。地域の方からの問い合わせがあり、電話で説明したり、見学を勧めた	○	運営推進会議で地域の方と意見交換を行なう中でホームへ遊びに来ていただいたりホーム行事への参加を勧める
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価ガイドをもとに、ケアサービスの質の向上に努めており、前年度の評価をもとに改善できる取り組み方法をチームで話し合い改善に向けている	○	外出支援や災害時の対応については、職員体制の検討や地区への相談を行なっている
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、ホームの状況や外部評価結果報告を行ない、ケアサービスについての意見を頂いている。職員に会議報告を行ない意見を出し合いケアの向上に努めている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の開催する行事や学習会に積極的に参加し、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えている		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	H20年度は学習会を開催して学びの機会があった。現状では必要な利用者はいないが今後のために資料をまとめていつでも利用できるようにしている	○	今後も活用する可能性があるため、学習会への参加や自己学習をして理解を深めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料を使いホーム内の学習を行っている	○	管理者及び職員は、利用者との関わりを見守り、異変への気づきに努める意識を養っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項にそって十分な説明を行なっている。内容は説明書通り、口頭でしっかり伝え、納得していただいた上で契約を結んでいる	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事前に意見を聞いたり、買い物時の購入したいものはないか、食事のメニューや好みなどの意見などを随時会話の中で聞いている。	○ 利用者からの要望のあった味噌汁の味を検討し、だし雑魚を変更した。今後も美味しいものを提供できるように意見を聞きながら改善していきたい
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に暮らしぶりや健康状態を伝えている。ホーム便りを4回/年発行し、訪問者に配布したり遠方の家族には送付している。掲示板に行事写真を掲示して様子がわかるようにしている	○ 預かり金については出納明細を年度末に発行する
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けている。来訪時に意見要望がないかの声掛けを行なっている。行事で来所時に家族同士の懇談ができるような時間をつくっている。運営会議に参加してもらい意見を聞いている	○ 意見や要望が出しやすいように、アンケートを活用することも考えている
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時スタッフミーティングを行ない、意見交換の時間を設けている。運営者への報告を行ない、可能な限り対応してもらっている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じて、職員の勤務時間を調整している。急な職員の休みに対しては休日出勤してもらうこともあり、職員に負担をかけた時期があった。現在、新職員が入り対応できている	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が新職員に慣れてくるまでに時間がかかるため、勤務体制で他の職員ができる限り支援して、利用者の混乱が起こらないように配慮している	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初心者や経験者など、段階に応じた施設外での研修に積極的に参加し仕事に活かせるよう取り組んでいる。また、研修内容を職員全員に回覧している	○ 新職員の院内研修を3月から計画している
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入会し、他のグループホームとの交流している。管理者のみの集会だけではなく、スタッフ同士の集会があったが、今回は体制上不参加であった。第二回霧島市健康福祉祭には写真を提供展示し、説明員として参加した。準備日や事前の意見交換会にも出席し情報交換し意見を聞くことができた	○ 研修は管理者とスタッフ一人の参加が精一杯であるが、新年度はさらに多くのスタッフが参加できる体制を作りたいと思う
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	気の抜けない勤務時間が続く中で、一瞬ほっとできるオアシスになればとの思いから、事務室内に職員専用トイレを設置している、また、事務作業の効率や休憩時間の安らぎのために、必要時はカーテンで仕切りができるようにしている	○ 採用時及び定期健康診断を継続して行なう。有給休暇の取得がし易くなる様考えていく。法人全体の行事に出て、職員相互の親睦をはかる
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回、出勤日数、当直回数、勤務態度、業務に関する能力等について、上司、理事長の評価を行っており、賞与査定等の一助としている。自己評価を求める時もある	○ 職員自身の業務についての気づきや、努力目標設定の助けになるよう、自己評価項目の選定をする。職員からの提言など、個別聞き取りをする機会を増やす。2月には個別面談を行なった
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前にご家族と一緒に何回か通ってもらい、居心地良い雰囲気作りを心がけている。また、本人との意思疎通が、困難なようであればご家族から情報を得て、本人の不安なことを解消できるよう努めている	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族と頻りに話す機会を作り、困っている事や不安な事など話しやすい雰囲気作りを努めている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の本人への思いを理解し、家族の意向、本人の気持ち、介護力を考えて、あらゆるサービスの説明を行なっている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の来訪で入居者との関わりを少しずつもたせる。またホームの雰囲気にも慣れてもらうように時間をかけている。家族にも入居当初は個々の様子によって面会の回数や時間なども考慮している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者からの話に傾聴し共感する姿勢をもつように努力している。生活の中で手伝っていただける時はできる作業を提供し見守っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族にはいつでも来訪してもらっている。現状を話し同様な姿勢で利用者とのかわりができるように声掛けしている。外出時の同伴や本人の希望に沿った帰宅支援など、家族と相談しながら実施している	○	家族の来訪時に散歩の声掛けをしている。暖かくなったら定期付けられるように声掛けしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	来訪時にはホームでの様子を伝え、家族の様子をたずねて近況を知り利用者との関わりにも生かせるようにしている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の方にもいつでも来訪していただけるよう声掛けしている。職員はお茶を出し、面会者に利用者の様子を伝えている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共有スペースでの個々の居場所の確保をして、気の合う者同士で過ごせるようにしている。会話の難しい利用者には、スタッフが間に入り会話がもてるような配慮をしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	要支援になって退去した利用者が、要介護となり再入居した。亡くなられた利用者のご家族はデイサービスを利用されている。気軽にホームへ遊びに来ていただけるように声掛けをしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の意志を尊重し、できる限り行動の制限等しないように本人の希望に合わせる暮らしを心がけている。また、意思疎通が困難な方には、ご家族から情報を得るようにしている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの習慣等気になる事があれば、すぐ、ご家族に暮らし方や習慣を確認し参考にしながら生活していけるよう努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の過ごし方のペースに職員が合わせ、できる事に着目し、それぞれの状態に合わせて過ごせるよう支援している		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成時には、必ず家族に確認してもらっている。介護計画にそったケアに取り組んでいるが、変化が生じた時にはcfの話し合いで見直しをしてチームケアを心がけている	○	少しのことは介護記録にケアの内容を記載しているので、記載しやすいcf用紙を検討中
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しはしているが、日々の細やかなケアについては介護記録で済ませている。家族の訪問時に現状とケアの取り組みについて話している	○	情報収集を一度にできるように受診や家族との面談内容は介護記録に青で記載している。試用中のミニcf用紙を利用してはどうかと思案中

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや変化、本人の話したことをできるだけ記録している。勤務に入る前には必ず記録により情報収集をしている。申し送り時に、気になる利用者のケアについて話し、夜勤者の対応に生かされるようにしている	○	ケアが日常なので日勤者三人でのカンファレンスの時間が作りにくい、朝夕の申し送りでの検討内容をきちんと記録に残せるようにしていく
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在の入居者はグループホーム入所継続を希望されているが、介護の状況や家族のご希望によっては他のサービスの紹介支援できるように考えている	○	併設のデイサービス利用の方々にいづれグループホーム入所が予想される場合は相談を受けて、家族、本人に見学、案内を行なっている
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の希望に応じて、地域の行事の参加、小中学校の吹奏楽部の演奏、踊りなどをボランティアでお願いしている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今までの趣味を継続できるように地区愛好会の参加や併設されているデイサービスの行事に参加している		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーであり、必要に応じて相談し助言をもらっている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病状の変化に伴う本人・家族への説明時、職員も入り、今後の治療方針・家族の希望を把握して支援できるように努めている。病状によっては訪問診察を受けている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導や失禁の対応についてはさりげない声掛けやプライバシーを損なわないように職員全員で取り組んでいる。記録は保管場所を決め、1ヶ所にまとめている	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	安全安心の範囲内で本人の意思や自己決定ができるように働きかけている。またそれぞれの理解力に合わせて話したり説明を行ったり心掛けている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて過ごせるようにしているが、どのように過ごしたいか具体的に表せる方は少ないので、なるべく自己の意思を表出できるように働きかけるようにしている。活動が始まった時は何をしたいのか見守り、一緒に活動できるように心がけている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その日に着る洋服や理容美容などは、本人もしくは家族の希望でそれぞれ行なっている	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの能力に合わせて本人の気が向く時に一緒に食事の準備・後片付けをしている	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在利用者に、お酒やタバコの習慣はない。おやつについては基本的には準備しているが、家族が好みの物を持ってこられたり、リクエストのおやつを職員と準備することもある。時には一緒に買い物に行き選んでもらうこともある	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	なるべくオムツは使用せず、それぞれが気持ちよく使用できるような物を選んでいただいている。自らトイレに行かれるときはさりげなく見守り支援し、また排泄時間のチェックをして時間のあいた方には声掛けもしている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ほぼ一日おきに入浴できるような予定を立てているが、個々の希望で連日もしくは延期している。入浴の手順は個々のやり方にそって支援している		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	それぞれの体調やその時々に合わせて、休息や安眠ができるように支援している		
に				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常の中で歌を歌ったりビデオを見たり音楽を取り入れたり支援している		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での金銭の保管は一人だけであり、家族が来訪時に確認されている。預かり金を個々の財布に入れて小遣い帳と一緒に保管しており、必要時は出し入れをして、家族への報告をする		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節によっては戸外に出ることがなく事業所の中だけで過ごすことがほとんどである	○	気候のよい暖かい日は戸外に出て散歩を楽しむよう取り組みたい。夏はボランティアの協力で近所の散歩ができていたが、冬に向けておろそかになっている。霧島市高齢者ボランティアや家族の協力をいただき支援していきたいと思う
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	買い物には一緒に出かけているが、希望する方が偏っている。また、家族との外出の機会を支援している	○	ピクニック、花見等の外出行事には職員での支援でまかなっていたが、介護度の重度化に伴い家族の協力をいただき、今後一緒に楽しめる行事内容を計画していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は年賀状を書ける範囲で支援し、電話については希望があるときは職員がかけて電話に出ただき、遠方からの電話には職員と一緒に対応している		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問できる雰囲気作りを心掛けている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は学習会で身体拘束の行為を理解している。生活の中で危ない動作の見られる利用者であっても見守りで支援できるようなケアを実施している。ADLの低下により補助具の必要な状況になった場合は家族との話し合いで危険防止を考えたケアの見直しを行なっている。ベッド柵は転倒予防・寝具のずれ予防のため、一部に装着している		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室・玄関は日中は開錠している。ベランダへも自由に入出りができている。利用者の所在を職員は把握しており、散歩に出かける利用者にはドアの鈴と鳥の鳴き声センサーですぐに気づき同行できている		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の活動を妨げず、さりげなく様子を見に行っている。リビングでは必ず職員が1人同席して、利用者の変化にすぐ対応できるようにスタッフ間の連携を密にしている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	台所用品の包丁やはさみなどは一緒に活動する際は、手の届く場所で利用者が使用しやすいように見守り支援をしている。不必要時は鍵のかかる引き出しに保管している。手洗いソープは個々の状況で居室に置いている。洗剤は洗濯場に洗剤ケースを置き保管する		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	それぞれの予防策を学習している。ヒヤリハット記録は些細なことも記載して職員での検討を行ない、予防できるような意識付けをしている。家族への連絡は随時、管理者、介護者から行なっている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルがあり、学習している。特に、心拍停止時の対応、AEDの使用法などの学習会を実施している。隣接病院への緊急連絡方法を確認している		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を行ない消火器の使い方の訓練をしている。地域の協力体制では近隣に職員宅があり呼びかけの体制がとれている。緊急時の連絡体制を掲示し随時確認を行っている	○	安全委員会で避難訓練の見直しをしている。今後隣接病院との連携体制の話し合いを進めていく予定である
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	状況によりリスクの説明を行なっている。主治医からの説明や管理者から家族に伝えたことについては介護記録に記載している。病気や困ったことへの対策については、状況に応じて家族の気持ちを聞いて、対応策を考えて取り組んでいる		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の健康チェック時、些細なことでも気づいたことは管理者に報告している。心配なことや普段と異なることが発生したら、隣接病院に相談報告をして受診している。対応に変化があれば申し送りノートを利用して共有している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は鍵つきの場所に保管している。薬には名前が明記しており、利用者には手渡し服用するまでの確認を行なっている。薬の作用についての説明書をファイルに閉じて職員がいつでも確認できるように保管している		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘対策として、毎朝の牛乳、ヨーグルト、オリゴ糖を使用して調整している。食材では繊維の多いものを取り入れている。排泄チェックを行ない個々の状態に応じた対応に心がけている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯みがきの声掛けを行ない、同時に口腔内の異常がないかをチェックしている。義歯の洗浄は習慣のある利用者には行なっている。歯磨き動作はできるところは見守り、できないところは支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は記録している。少ないときはおやつ時に食べれる物、好みの物を補給できるように努めている。水分は1500ml程度で補給に努めている。メニューの記録から栄養士にカロリーとバランスのアドバイスをもらっている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染委員会でのマニュアルがあり、予防対策に努めている。流行の時期には見直しを行ない、意識づけしている。家族へも手洗い、うがいの徹底をお願いしている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、布巾等は随時消毒し清潔に心がけている。調理用具や食器は洗浄後必ず乾燥機での高熱乾燥を行なっている。2回/Wの買い物時は冷蔵庫の整理、残食材の点検をしている。生物は毎日届けてもらっている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にはチェアとマスコット猫の置物「たま」が出迎える。隣接病院と連絡口の渡り廊下があり出入りがあるため、チェアの活用が大きい。外玄関の周辺には、畑や植木があり、草花の優しい色合いが落ち着く空間となっている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ワンフロアにリビング・食堂・台所があり、食事の準備や後片付けに気軽に入りやすい動線になっている。「手伝いましょうか」「かせ～しようか」と台所に入ってくる利用者があり、音や匂いで生活感を感じ取れていると思う。カウンターで立ち止まる利用者が多く食事を楽しみに思っている表情を見られることが嬉しい		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同士での食堂テーブルの配置やリビングでは座りやすいセッティングにしている。玄関やフロアのスペースにはイスを置き好きな場所で一息つける工夫をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ペット以外は私物を持ち込んでいる。家族の写真を飾ったり小物をや趣味の本などを置き、好きな歌を聴いたり個々の時間を過ごしている。兄弟の形見である人形を持ち込んで安心された方もいる		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングには湿度計・温度計があり随時チェックしてエアコン調整や換気を行なっている。玄関の匂いや排泄物の臭いが不快にならないように換気扇や消臭剤で調整している。居室での排泄汚染時は即清掃して快適な空間にしている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別に活動する動線を崩さず安全に移動できるように配慮している。歩行時、車椅子移動時の手すりの利用ができています。日常生活動作にそった落ち着く場所で生活できるように配慮をしている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	生活動作では自ら活動する際は何をしたいのかを見守り、できない部分には支援をしている。日課に添った活動の声掛けをするが、個性を大事にした活動を優先して支援する。混乱を起こす行動を改善するために、ケアカンファレンスでケアの話し合い、ケアの統一を図り不安を取り除く方法を考えている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダではプランターの花を楽しむことができる。テーブル・チェアがあり皆でお茶を飲んで語らう楽しみがある。1階に下りると家庭菜園の草花で季節感を味わう事ができる。駐車場に面しているベランダに出て、家族を見送ることができる	○	昨年庭でグランドゴルフを楽しめる空間作りを検討している、今年こそ実現させたい

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の方々がいきいき・のびのび・ゆったりとできる生活の場を心がけている

触れ合いと心身の安定、できることへの自信を持ち、生活に楽しみと生きがいを持てる暮らしができるように支援している

ご家族の訪問が多く毎日賑やかで笑顔の溢れる雰囲気のあるホームである